

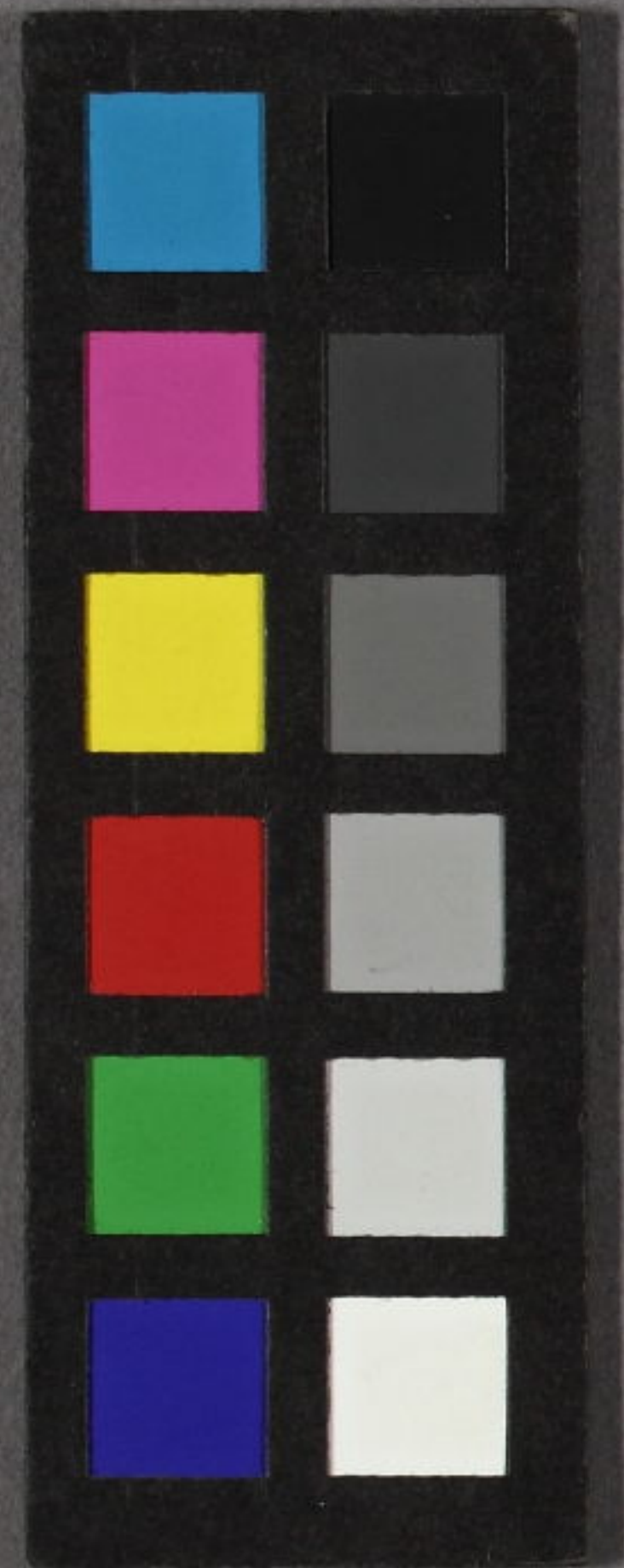
江湖新聞

第八號

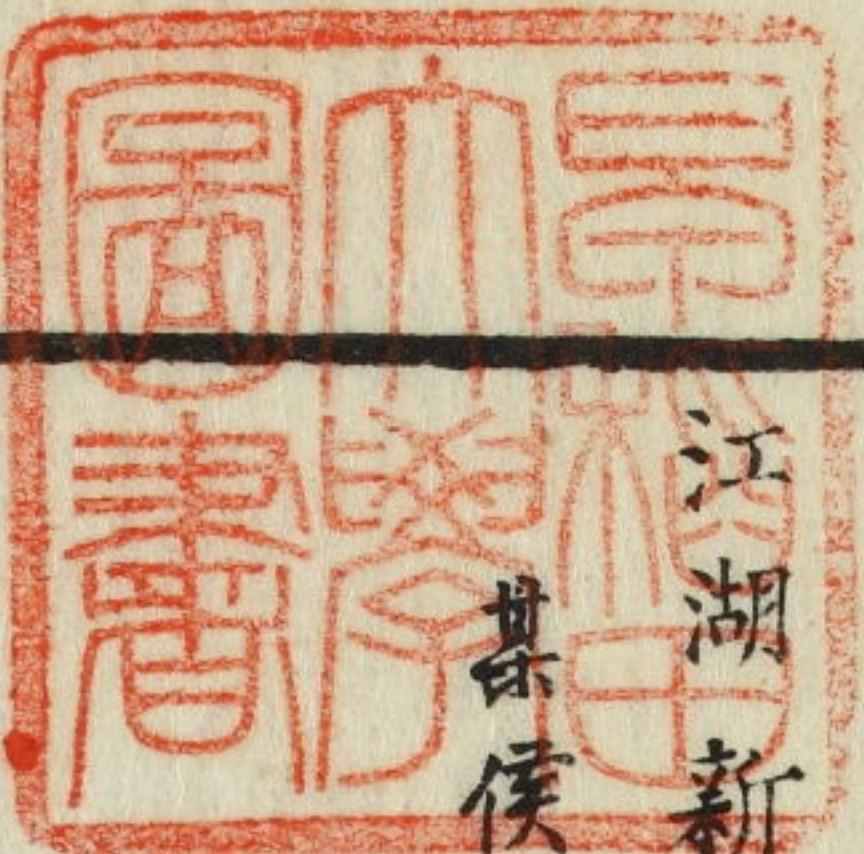


定價八分

西垣文庫 特
 文庫 10
 7287
 8



特 文庫10
7287
8



江湖新聞第八号

慶應四年戊辰閏四月十七日



某侯之速白

此文の無慮より書信中に得る姓名を刪去す故にその推し
 たるを知らば毛利宰相の上書多るといなり或は曰加賀侯
 と速白ありと何と云と絶とすべき條あり行文の間、據り
 て論じざる前説終るふ似たり姑く後日の確報を待つ
 徴臣 ■ 殊恐疎慢頓首して愚衷を甘達言外徳川□□侯
 去ル正月中惣多し心身射 輩下漢地仕ゆる及跡昭然として
 天をぞ下し追討し 恒付以処不費日不務時滅去を平治仕
 □□坂株を奪て東適致ゆ奈ハ 官軍戒るに功を云中

二月二

如何之... 孤軍を以て客北に臨み兵を拜せ若くは後...
 家く大棟ト兼り及び第一□□の家臣大□□恭順し道...
 面談静正身も寛大に承て出仕徳川の家名全く...
 結言 始付 敵意と好し謀り決死一戦と鐵決致窮氣却る
 函猫之緒を類し 王作之抗戦一統はも猶計は此内あり
 王作之脱陣を以る及緘口一平治仕百戦百勝之上策也と披...
 後 浙成算内多とも彼我の間多夢に生命を憚り不幸...
 氏を以る兵心之難を為羅ゆも幸大徳兆に民浙愛撫...
 聖意もお房り平成宣んや戦し務敵の領も多紛争なき...
 幸天付地理の得失を若し王無不利の事大徳に与るは是迄

浙武徳を駿いし已む代王政一新し浙情固く關係仕...
 痛ん死在の右に儀、此其最前微臣 ■■■ 分内 奏侍かく □□
 米地と 下迄天下諸伯の首領と此 修付いす □□家臣共...
 聖意に廣大に感激仕念 聖業を補佐侍、お連有るも安具家康
 以某二百五十年にる 系原の對勤勞侍唐も打立一舉して関東
 要相一均、以威策にて多中即今要相も余討庄内も鎮民元
 聖徳に度大も存存 王作之不彼より云様を勤め徳し有る一層、
 敵を急せとお強小儀、其業細は是亦之鎮民共 □□此を重むお定以上の
 兵卷を抛て 皇威を降伏せ仕ら必常に儀、以 時業も来吾得共
 今も今日も一舉、拘り以る微臣の故言 以嘉納とお在也 ■■■

此下伏賊の事志の如く味死に奉
奏聞の事思慮慎重首領首

辰四月

臣



右に達向の事政官より採用お取らるる事と之を知りて文意甚
實に之過る事辨知是れ鉄鏡と云べし何れは事加納ありて死に也

○

因四月二日附て伏見より末状中へ曰

一 小山戦争に一条の付薩長に依りて人殺り後借採出せり
大坂より燕守船にて出帆進て江戸迄と云

○ 信州松本藩城に攻進有之松代も危キ報合附て去進て英波

信州押出の事同(一)の事京地信て尾州より人殺り松本
松本辺り大名方の二日逗留する様之物尾尾吾田に余尾
之遠く松本方へは跡以留まらぬ
一 尾張元代殿當番大坂より入御進て逗留せらる

○

駿府在任に役より先願の事在り通り定也

駿府勤番 十八人扶持 山崎代 組与力 十八人扶持

町与力 十人扶持 三組同ふ 五人扶持

甲府より

二百俵以上 二十人扶持 百俵以上 十八人扶持

那屋恒二三男尼命の或人扶持宛ら下甲信後を
閨門警備せ令せしむる

○孝子のはあし

孝子あり母は法をまめくくさむる母の母
孝子をほくめる母はあしむくあはれ難問すと
いふも唯ことごとくとさるりそむるは孝子あり

後者巧りてえく娘若くもいふ小悪かれともあま親なるの名あるを
以てとく絶すべしあま御多くといふ返さくそ来りてあつのみ
独るあま小歳者あり彼母の美の母もあま猫の化すも結
たるとあま徳を印せしむるに及ぶとあま母の猫怪あり
を志すに赴きいふ形を我母の似るを以て孝子母を南
るの徳のあまあま情よく命を尊ぶ是れおひく義者
也、猫怪を折て孝子のとさむるを以てとす

○所役人小謂て曰

二月下旬の結ありか 大君上孫小所恭順の折
拙台あま小信る所人あま素その身系来受といふもあま結

大臣一躬の事ハカ件ハカより今日の御恭順何ともし思入ハカ儀也
 御ハカの事ハカよりハカ不敬ハカの罪ハカを免ハカ律ハカあふハカ何年進ハカ跡ハカ也
 たハカとハカ心ハカひハカとハカんハカがハカひハカらハカふハカいハカうハカあハカるハカ殊ハカ捨ハカありハカとハカそハカ所
 役人ハカありハカとハカもハカ些ハカ微ハカあるハカ事ハカとハカ大ハカ意ハカ疎ハカにハカ進ハカ跡ハカいハカうハカたりハカと
 傳ハカ之ハカ百ハカ年ハカ來ハカ想ハカ悟ハカのハカ若ハカ體ハカきハカ所ハカ人ハカをハカふハカ躬ハカのハカどハカうハカ

○
 皇ハカ上ハカのハカ大ハカ坂ハカよりハカ所ハカ無ハカ船ハカとハカのハカ北ハカ水ハカ路ハカ系ハカ河ハカ小ハカ還ハカ所ハカ
 何ハカとハカのハカ躬ハカをハカ好ハカとハカ意ハカしくハカ九ハカ編ハカとハカ出ハカたハカとハカ

